



11月「Der Wert des Lebens」 アントニア・シュルト

1. 小林市の小学生を含めて、私と関わったことがある人なら、トニーという人はおそらく今までの国際交流員の誰よりも動物が好きで、色んなペットを飼っていると分かっていると思います。自己紹介をするたびに、必ず犬などの写真を何枚か入れていますから。



2. 犬が3頭、猫が…あっ、それは最後にしましょう。鶏が20羽、メダカが何百匹かいるとよく自慢します。ところで、今まで猫は一匹だけいたけど、一か月ほど前から一気に増えました。それはどういう意図かというと、雨がやっと止んで、暗い夜のことでした。犬の散歩の終わりに、藪から鳴き声が聞こえてきました。見に行ったら、4匹の仔猫がいました。近くにレジ袋もおいていました。関係なかったかもしれませんが、何となくそれに入っていたという気がしました。4匹とも濡れていて、すごく小さかったです。どうしたらいい？動物が好きと言っても、見た目で生まれたばかりの4匹の仔猫はちょっと無理と迷っていました。そのままおいていたら、タヌキなどに食われるか、寒さや飢餓で死ぬに決まっています。なぜか見つけてしまった瞬間、その命が私の責任になったと感じていました。自分で保護するか、保護してくれる人を見つけるか、その場で苦しみがないように自分の手で絞めるか、その三つかなと考えながら、仔猫の鳴き声に現実に戻されました。ため息をもらして、4匹を拾って帰りました。

その日から何週間か経って、仔猫がいる暮らしに慣れてきて、今では4匹とも元気に育っています。



3.さて、なぜこういう話をするのでしょうか？良いことをして自慢したかったでしょう。または、里親を探しているからでしょう？まあ、確かに二つ目は少しあるかもしれませんが、それよりこの猫の件によって「命の価値」を考えさせられました。言葉から始まります。日本語で要らなくなったペットは「捨てます」。私の日本語が母語ではない人の感覚ではそれがかなりひどい表現です。「ゴミみたい」に」と頭の中に出てきます。

人間は動物でありながら、ほかの動物と異なる特質を持っているので、人間にはほかの動物にない固有な人権権利が保障されています。例えば、アリストテレスという古代の哲学者は「人間だけが理性的な能力をもつがゆえに、理性を欠く動物と区別され、動物の上位に位置するとした上で、動物が成長したときも同様に、植物は食糧として彼らのため存し、他の動物は人間のために存し（…）。」と言いました。同じように、デカルトというフランスの哲学者は「動物たちには理性がないとして動物は理性を持たない自動機械に過ぎない。」と主張しました。ちなみに、動物には理性がないため、尊重されるべき存在ではない、人権のような権利が保障される必要はないという論理です。しかし、人間の特質だとされた理性や知性などが欠けているそれと思われがちな重度の精神障がい者や乳幼児などにも人権を保障する必要がないという解釈が可能になります。ドイツの哲学者のカントは「動物は人間ではなく、物であるため単なる手段として使ってもかまわない」という立場に立ったが、動物を虐待しても良いというわけではないと考えました。なぜなら、「動物に対して上記のような残酷な行いしている人は、人間に対して同様に無感覚になっているからである」。



4.すなわち、動物に対して邪険な行為をしたら、人間らしくない、人間として見苦しい行動だから、そうやって自分の人道に傷をつけることと同じだと言っています。これは少し猫の件につながってくるところだと思います。多くの人たちは、たぶんまず猫を可哀そうに思う反応が多いと思いますが、やはりそれだけではないかもしれません。そういった残虐な行動によって行為者にも取れないシミが付きます。人間を中心とした世界観を持っていたカントなどはその点を強調しました。それに対してルソーは動物が人間と同じように感受性を持っているという共通点があるため「人間によって無益に虐待されるべきではないという権利を持つのである」と考えました。動物の扱いや動物の命の価値について考えてきた哲学者の中で、一番私の意見と共鳴するのが功利主義の哲学者のベンサムによる発言です。「問うべきは、動物は理性的かでも、動物は話できるかでもなく、動物が苦を感じるかということである。」間違いなく、それはありますね。苦痛を感じる動物はきっと平等な道徳的な配慮の対象になると思います。だから、気軽に捨てないでください。